

岩手郡医報

平成12年2月 No65

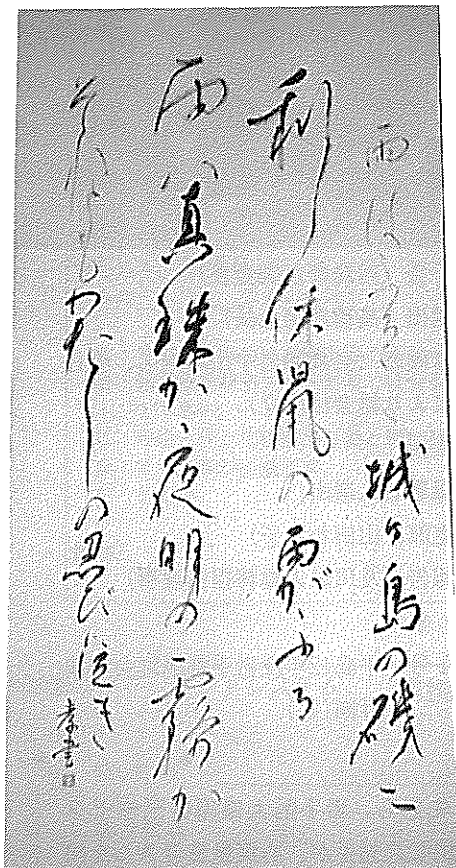
編集 発行

岩手郡医師会

題字 雫石町高橋孝先生

雨はふるふる城ヶ島の磯に
利休鼠の雨がふる
雨は真珠か夜明の霧か
それとも私の忍び泣き

孝書



右の書は雫石町 高橋孝先生による

この歌は、北原白秋が1913年夏、東京から魚の仲買人として、神奈川県三崎町に移り住んでの生活中に舟歌として作詞したもの。歌碑は白秋の没後、1949年（昭和24年）7月、三崎町（現三浦市）城ヶ島の磯に建てられた。—大日本百科事典（小学館刊）—（M・S記）

目次

『城が島の雨』 雫石町 高橋孝	1	第12回岩手地区学校保健会・安全・給食研究大会	10
岩手郡医師会通常総会	2	講演会	11
心疾患診療マネジメントシステム	2	懇親会・忘年会	12
会務報告	4	岩手郡医師会理事会、役員会	13
平成12年度事業計画	4	随想「介護保険認定業務にあたっての感想」 雫石町 高橋孝	14
平成12年度・一般会計予算書	5	新入会員	16
平成12年度・休祭日当番医予算書	6	編集後記	16
任期満了による役員改選	6		
地域医療講演会	7		
救急医療研修会	8		
平成11年度岩手山噴火対策防災訓練	8		

岩手郡医師会通常総会



日 時：平成12年2月12日
午後3時30分

場 所：ホテルメトロポリタン盛岡
NewWing

1. 開 会（西島康之副会長）
2. 議長選出（高橋孝副会長）
3. 出席者確認（会員89名中出席34名、委任
状29名により総会は成立）
4. 会長挨拶
5. 議事録署名人選出
（高橋克郎、山田わか子）
6. 会務報告（及川忠人総務担当理事）
7. 議 事
議案第1号 平成12年度岩手郡医師会事業
計画(案)

議案第2号 平成12年度岩手郡医師会一般
会計予算書(案)について

議案第3号 平成12年度岩手郡医師会休祭
日当番医予算書(案)について

議案第4号 任期満了による役員改選

8. 閉 会（西島康之副会長）

9. 地域医療講演会

「岩手山噴火における災害医療体制」

岩手県高次救急センター

教授 谷 口 繁 先生

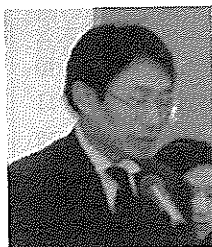
10. 懇 親 会

総会に先立ち、岩手医大循環器医療セン
ターの鎌田弘之先生が、心疾患患者さんを同
所に紹介する際にファックス利用による医療
情報の活用システムについて解説された。

先生は昭和59年に岩手医大医学部を卒業さ

れ、平成5年岩手医大第二内科助手となり、
平成9年より循環器病センターで活躍中で、
特に在宅健康管理のネットワークの構築につ
いて造詣が深い。

心疾患診療マネジメントシステム



鎌田弘之先生

趣旨：心疾患の治療の
考えはこの十数年で大き
く変わりました。たとえ
ば無症候性心筋虚血が心
臓性急死の前段階として
位置付けられ、経皮的冠動脈形成術や冠動脈
バイパス術などが盛んに行われるようになり
ました。このような技術の進歩に伴い、疾患
のマネジメントの方法が変化したにもかか

岩手医大循環器医療センター 鎌 田 弘 之

わらず、それに関する実地医家への広報は十
分とはいえません。その一方で、虚血性心疾
患のスクリーニングの必要性を痛感している
実地医家も多いものと思われます。しかしス
クリーニングには専門的知識と高度医療機器
およびマンパワーを必要とするため、日常医
療の中で簡単に行うことは困難なのが実状で
す。そこで、岩手医科大学附属循環器医療セ
ンターの専門的知識と高度医療機器を地域の

医療機関に広く開放し、実地医家の皆様との連携を推進することを目的にしたシステムを提案いたします。

方法：ファクシミリ（別紙）で希望する検査を連絡いただき、速やかに（30分以内）検査のスケジュールを予約し返答いたします。

- 1) 紹介元医は、希望する標準の検査コースあるいは検査項目にチェックをつけてカルテ号紙（表紙など住所・生年月日・保険のわかるもの）と検査の目的等を書いてファクシミリ019-624-8372（循環器医療センター事務）へ送付してください。届いたファクシミリを内科外来担当医が責任を持ち（夜間に届いたファクシミリは翌日の午前の内科担当医）、必要な予約後に事務に連絡します。
- 2) 事務が循環器医療センターの外来カルテを作成し、受診に必要な情報（予約日と

検査の説明文など）をファクシミリ受付から30分以内に送付します。

- 3) 検査に関する医療費の概算もお知らせいたします。
- 4) 検査終了の約10日後、日常診療上の管理のポイントなどを付記した総合レポートを郵送いたします。〔下記〕

拝啓

平素は格別にご高配賜り、厚く御礼申し上げます。この度は心疾患マネージメントプログラムへのお申し込み、ありがとうございます。さて、今回申し込みの_____さまの結果です。

- A：今回の検査では異常を認めません。
B：循環器医療センター外来で検査を追加させていただきます。
C：今後入院して精査が必要と思われます。
D：すぐ入院が必要です。
E：その他

説明：

〔別紙〕

岩手医科大学附属循環器医療センター心疾患診療マネージメントシステム		日付
FAX		
発信先	岩手医科大学附属循環器医療センター	発信元
FAX番号	019-624-8372	FAX番号
電話番号	019-651-5111(7222)	送付枚数
要件	☐ 検査予約 ☐ その他	配布先 循環器センター外来 鎌田弘之、塚澤仁敏
(検査日の希望日：ない、ある 1. 月 日 2. 月 日 3. 月 日) 一連の検査として		
☐ 虚血性心疾患（12誘導心電図、胸部X線、心エコー図、トレッドミル、超高速CT） ☐ 不整脈疾患（12誘導心電図、胸部X線、心エコー図、ホルター心電図、加算心電図） ☐ 弁膜症・先天性心疾患・心雑音検査（12誘導心電図、胸部X線、心エコー図） ☐ 胸部あるいは腹部大動脈瘤（12誘導心電図、胸部X線、心エコー図、超高速CT）		
単独で選択する検査として		
☐ 経胸壁心エコー図 ☐ トレッドミル ☐ ホルター心電図 ☐ 超高速CT（ブレン）部位：（胸部・腹部・頭部・その他）		
以下の検査については検査日のお知らせに数日かかります、ご了承ください。		
☐ 負荷シンチ ☐ MRI部位：（胸部、頭部、その他）		
検査の申し込みする理由（簡単に病歴と症状を御書きください。）		
注意：この用紙に記入し必ずカルテの表紙など患者さんの住所・生年月日・保険のわかるものを添付して送って下さい。 ご不明の点は循環器医療センター：電話019-651-5111(7222) 塚澤仁敏(事務室)、鎌田弘之(外来責任者)までお気軽にお訪ね下さい。このFAXを送ってから30分経過しても返事のFAXが御手元に届かない場合はご連絡ください。		

◆会務報告

平成11年4月17日(土)
平成11年度岩手県医師会通常総会
於県医師会館

平成11年6月6日(日)
岩手県医師会ゴルフ大会
於岩手沼宮内C.C

平成11年6月27日(日)
第51回県医師会総会兼第102回岩手医学会
(春季)総会 於県医師会館

平成11年7月30日(金)～8月10日(火)
全国高校総体への救護医及び休日・夜間当
番医としての協力(雫石町、岩手町、西根
町、滝沢村、松尾村)

平成11年8月9日(月)
盛岡地域災害医療対策連絡会議
於盛岡地区合同庁舎

平成11年8月22日(日)
県医師会親睦野球大会 於宮古市

平成11年8月31日(火)
岩手山災害対策協議会
於エスポワールいわて

平成11年9月4日(土)
東北医師連合会 於盛岡市

平成11年9月26日(日)
県医師会親睦ゴルフ大会
於栗駒ゴルフ倶楽部

平成11年10月1日(金)
介護認定審査会発足(盛岡北部行政事務組
合、雫石町、滝沢村)

平成11年10月12日(火)
主治医意見書説明会 於県医師会館

平成11年10月17日(日)
岩手県医師会ゴルフ大会
於安比高原ゴルフクラブ

平成11年11月20日(土)
岩手県医師会講演会・忘年会
於H.メトロポリタン盛岡NEW WING
鈴木智之先生(岩手県高次救急センター)及
び柳家金三氏(落語家)の講演会

平成11年12月5日(日)
診療情報提供に関する講習会
於県医師会館

平成12年1月29日(土)
岩手県医師会役員会(通常総会準備など)
於梓

平成12年2月12日(土)
平成11年度岩手県医師会(後期)通常総会
於H.メトロポリタン盛岡NEW WING

議案第1号

平成12年度事業計画

21世紀を目前に控え、医療制度抜本改革や4月から施行される介護保険制度などの問題と合わせ、少子高齢化が進行する現在、保健・医療・福祉の環境は予想を上回る複雑さと多様なニーズの中で、混沌とした様相を呈している。

長引く不況の行く先に明るさは見えにくく、医療関係者はもちろん、一般市民への情報の共有化は医療関連のみならず、多くの論議のうちに医療の中での、「情報提供」の重要性が見直されつつある。また第四次医療法改正および介護保険施行に連動する医療診療報酬の改定がなされようとしているが、依然として社会保障制度および医療構造改革に伴う医療費抑制策等による医業経営上の危機を招きかねない不透明な情勢が続いている。

一方、政府の経済政策の不備は国民の政治不信を増幅させているが、21世紀への変わり

目になるこの時期には、これら混乱を脱するための「新たな世紀」を切り開く強力なリーダーシップに期待するとともに、医療機関関係者自らも医政に対する感心をさらに強め、県医師会事業に対する積極的協力はもとより地方自治体等との連携を密にする努力をさらに続けなければならない。

以下、地域医療確保を目的として次の重点項目を掲げてその実践に努めたい。

- (1) 医の倫理と生命倫理への関心
- (2) 県医師会事業への全面協力
- (3) 地域医療活動の強化
- (4) 生涯教育の実践
- (5) 会員福祉の充実
- (6) 医業経営の安定化
- (7) 保険医療の適正化
- (8) 地域住民の健康啓蒙教育
- (9) 関連団体との連携

議案第2号

平成12年度・一般会計予算書

自 平成12年4月1日
至 平成13年3月31日

社団法人 岩手郡医師会

《歳入の部》

単位：円

科 目	金 額	摘 要
繰越金	9,475,000	前年度より繰越
会費	6,225,000	A会員 53人 5,035,000(@95,000×53人) B会員 36人(内免除2人) 1,190,000(@35,000×34人)
補助金	83,000	地域医療 28,000 学校医 55,000
雑収入	17,000	預金利息
合 計	15,800,000	

《歳出の部》

単位：円

科 目	金 額	摘 要
[事業費]	(12,390,000)	
会議費	2,600,000	総 会 2回 1,200,000 理 事 会 6回 600,000 総 務 会 12回 600,000 監 事 会 1回 100,000 県医総会費 1回 100,000
担当部会活動費	800,000	
生涯教育費	3,700,000	医学向上費 500,000 学校医研修会 400,000 スポーツ医学研修会 200,000 保険問題協議会経費 300,000 産業医研修会等事業費 300,000 医療情報システム研修費 500,000 災害救急医療対策費 600,000 かかりつけ医機能推進連絡費 200,000 介護保険研究対策費 300,000 地域医療対策費 300,000 予 備 費 100,000
地域保健	400,000	各町村の地域保健懇談会 300,000 他郡市との懇談会 100,000
広報発行費	1,510,000	広報連絡協議会 200,000 印 刷 費 1,000,000 発 送 費 160,000 編集会議費 100,000 雑 費 50,000
租 税 公 課	80,000	
旅費交通費	1,500,000	
交 際 費	1,000,000	
慶弔見舞金	500,000	
広告賛助金	200,000	
予 備 費	100,000	
[事務費]	(3,410,000)	
事務費	3,410,000	事務員給与 1,200,000 事務所家賃 240,000 事務連絡費 400,000 通 信 費 600,000 消 耗 品 費 300,000 印 刷 費 300,000 水道光熱費 120,000 リ ー ス 料 30,000 事務処理費 120,000 雑 費 100,000
合 計	15,800,000	

議案第3号

平成12年度・休祭日当番医予算書

自 平成12年4月1日
至 平成13年3月31日

社団法人 岩手郡医師会

《歳入の部》

単位：円

科 目	金 額	摘 要
繰 越 金	7,863,000	前年度より繰越
補 助 金	4,239,000	各町村より
雑 収 入	28,000	預金利息
合 計	12,130,000	

《歳出の部》

単位：円

科 目	金 額	摘 要
報 償 費	8,130,000	健康教育費 1,780,000(@2,000×89人) 生涯教育研修費 800,000 生涯・医政施策費 800,000 救急対策費 600,000 町村との連絡協議会 1,400,000 県医野球大会 800,000 県医ゴルフ大会 200,000 郡学校保健会補助金 150,000 講演会・合同研修会 1,000,000 厚生福祉費 600,000
需 要 費	1,500,000	会 議 費 600,000 消 耗 品 費 300,000 印 刷 費 300,000 通 信 費 300,000
旅 費 交 通 費	1,500,000	
慶 弔 表 彰 費	800,000	
予 備 費	200,000	
合 計	12,130,000	

議案第4号

任期満了による役員改選

任期満了に伴う社団法人岩手郡医師会役員改選、理事監事の候補者選出の経緯と結果について報告致します。

定款には「理事、監事は総会において会員の中から選任する」とありますが、総会当日どうしても都合がつかず、出席出来ないため、立候補出来ない会員もあり、又新しい役員の登用、立候補を促すという考えから、事前に役員選出管理委員会を設置することを12月の理事監事役員会で決議致しました。その結果、地域性、年齢を考慮し、選出管理委員には及川忠人、高橋孝、西島康之、栃内秀彦、坂井博毅の5人の各先生が選ばれました。

役員選出管理委員会代表 坂 井 博 毅

昨年12月27日、第1回の委員会が開催され、その結果、選出方法は前回通り、推薦立候補制により選出することとし、選出管理委員会が発行する推薦届書に6人の推薦者が署名捺印し、本人の承諾書を添えて、立候補届書を選出管理委員会に1月20日迄に提出する事を決めました。

これを「社団法人岩手郡医師会、役員選出告示」として書面をもって会員皆様全員に通知し、その結果、及川忠人、岡本彰、上原充郎、久保谷康夫、篠村達雅、坂井博毅、佐々木久夫、高橋孝、高橋牧之介、栃内秀彦、西島康之、根本忠夫、八角正司の各13名の先生

方が理事候補者に、三善悟、細井信夫の2名の先生方が監事候補者として立候補され、選出管理委員会に書類を提出された。これを受けて、1月21日、第2回の選出管理委員会が開かれ、13名の理事、2名の監事立候補者が提出した書類が、選出管理委員会が設定した正規の様式に該当するかを検討しました。その結果、立候補届書の全てが正当である事を認めました。以上役員選出管理委員会からの報告と致します。

この報告を受けて前記13名の理事と2名の監事が総会において承認を得て、理事の互選により、会長に高橋牧之介先生が再任、副会長には高橋孝先生、西島康之先生が再任された。

【岩手県医師会役員】

<会長>高橋牧之介

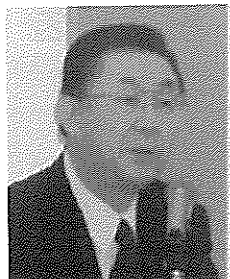
<副会長>高橋孝、西島康之

<理事>及川忠人、岡本彰、上原充郎、
久保谷康夫、篠村達雅、坂井博毅、
佐々木久夫、栃内秀彦、根本忠夫、
八角正司

<監事>三善悟、細井信夫 (敬称略)

○任期：平成12年4月1日～

平成14年3月31日



高橋牧之介会長

【地域医療講演会】

「岩手山噴火における災害医療体制」



谷口繁教授

岩手県高次救急センター

(社)岩手県医師会常任理事

岩手県高次救急センター教授 谷口 繁

初動体制の整備として、「災害時の医療救護に関する協定書」の一部を見直し、「県医師会とは県と連絡の取れない時や

派遣要請を待つ時間がない救急の場合、自主的に医療班を編成し派遣することができる。その後、県が医療班派遣の必要を認めた場合は、派遣時にさかのぼって要請があったとみなす」という条項を追加したことを報告し、災害時の初動体制を明確にした。さらに、県内拠点病院の整備、情報の伝達およびヘリコプター搬送体制の整備、地域災害医療対策連絡会議の設置、広域応援体制の整備、病院防災マニュアルの作成などの推進を提言した。これらの提言を具体化するためにこの1年、次のことを行った。

(1) ヘリコプター搬送の普及

県内各地で郡市医師会・消防本部合同連携訓練を実施し、医師搭乗体験を通して、ヘリ搬送の普及を図った。その結果、医師のヘリ搬送に対する意識が高まった。

(2) 医療機関別大災害時傷病者収容調査

岩手山火山防災対策の一環として、盛岡医療圏13医療機関における重症度別・発生時間別傷病者収容可能数を調査した。各医療機関における実質的な収容能力に基づき、傷病者の過度集中による混乱を避け、効率的な収容を図るものである。

その他の提言は残念ながら実現していない。財源確保の見通しが無いのが大きな理由であるが、これらは平時の救急医療の要件でもあり、逡巡は許されない。

なお、東北地方における大規模災害時の医

療提供には、6県間での指揮命令のコンセンサスが重要であろう。そのためには本学会と東北医師連合会との連携が必要と考える。

○「宿泊施設が被災した場合の対応、避難誘導体制等について」

国民休暇村岩手総支配人 小林廣明

○「火山性地震発生時等のスキー客の避難誘導体制等について」

東北リゾートシステム(株)代表取締役社長
眞鍋嘉彦

上記内容について平成12年1月20日、岩手県議会防災対策特別委員会(委員13名)において講話会があり、今回岩手山に一番近い岩手郡医師会会員にも伝達の機会をいただいたものです。

救急医療研修会



心肺蘇生法研修会(雫石町)

救急医療行事の一つとして心肺蘇生法の実技講習会を実施しました。

雫石町医療団代表根本忠夫先生の挨拶に続いて救急蘇生法のビデオでイメージトレーニング、その後谷藤一生先生の指導のもと、ダミー人形を使って実技研修を開始(写真は高

と き:平成11年10月19日(火)

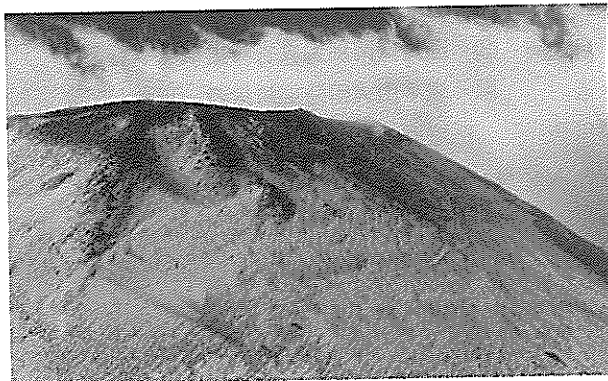
ところ:雫石中央公民館

雫石町(郡医師会理事)

篠村達雅

橋孝先生撮影)。入れ歯があわず空気もれのため呼吸がうまく出来ない人もいたが、数回の研修を受けた人もおり、比較的上手であった。他の人の実技を見ながら一つ一つの動きをイメージしてとりくめば、初めての人も覚えが早いように思われる。参加者はさわやか健康教室に集まっていた人と雫石町内各医療機関の従業員あわせて約80名であった。「年1回研修出来れば忘れないね、夫にも覚えてもらわないと……」という声も聞かれた。

平成11年度岩手山噴火対策防災訓練



岩手山

岩手県及び岩手山周辺6市町村が主催する岩手山噴火災害防災訓練は、平成11年10月24日(日)西根町において行われた。県警や自衛隊

日時 平成11年10月24日(日)

午前8時から午前11時まで

会場 西根中学校、西根町民センター、西根町民体育館

郡医師会理事 嶋 信

岩手駐屯地、消防団など31団体と青森県防災ヘリコプターも加わり(今回初めて)、西根町民も含めて約3,800人が参加した。

訓練は、県と西根町が「噴火の恐れがあり、大規模な災害が予想される」という臨時火山情報（気象台発表）により西根町平笠地区の住民に避難勧告を発令し、一斉に避難所に指定された西根中学校の校庭及び体育館に避難した。（378人）

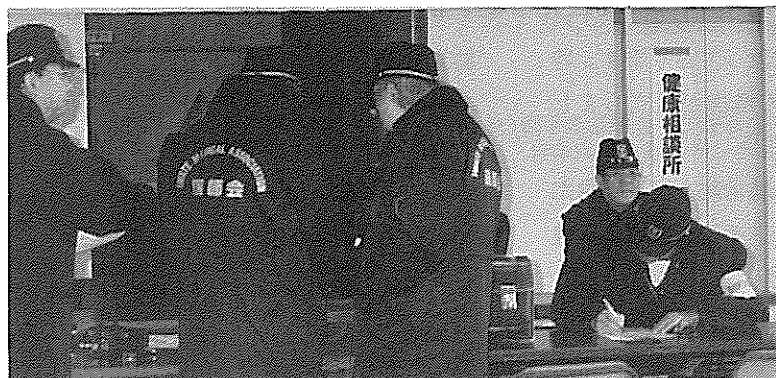
岩手郡医師会（高橋牧之介会長以下5名の医師参加）、地元西根病院（細井信夫院長ほか看護婦3名参加）は、県医師会より医療班の派遣要請を受けて、避難所において消防団、

自衛隊などと連携し、被災住民を救出し、救護所においてケガ人の応急手当、重軽傷者を分類する「トリアージ」を行った。重傷者はヘリで盛岡市県高次救急センターまで搬送するなど各機関の連携・協力を重視した訓練となった。

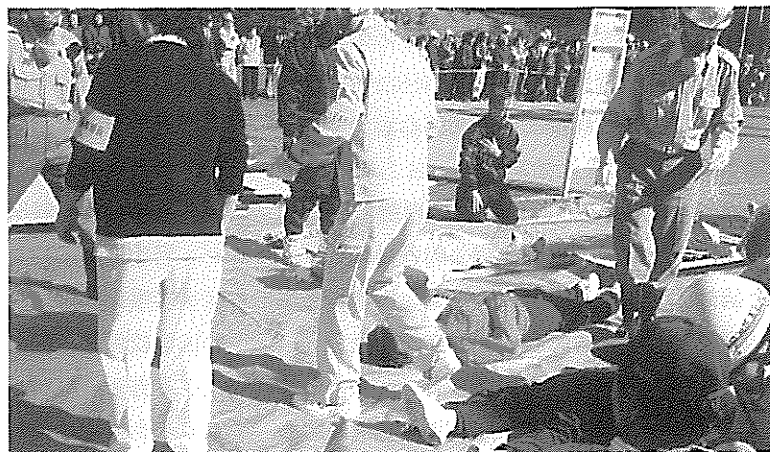
この岩手山噴火防災訓練は、平成10年10月に松尾村で、平成11年1月には滝沢村で行われ、積雪期を想定した平成12年2月20日には雫石町において行われる。



体育館に避難した町民



入念に打ち合わせをする医師団



救護所におけるトリアージによりケガ人の分別

第12回岩手地区学校保健・安全・給食研究大会



上記大会が平成11年11月6日(土)、玉山村中央公民館において開催されました。回を重ねる毎に参加者が増加し、今回は100名を越すほどの参加者でよかったと思っております。特に学校関係者の参加者の増加が目立ちました。

今大会は大会主題を「21世紀を担う子供たちが自ら健康なライフスタイルを確立する健康教育をめざして」と設定し、報告、講演、研究協議が行われたので報告致します。

【内容】

(1) 報告

「岩手郡内の学校医に関するアンケート調査結果の報告」

岩手郡医師会理事 上原充郎

(2) 講演

演題 「落ち着きのない子の理解とその対応についてー注意欠陥多動障害ー」

講師 岩手県立南光病院院長 山家均先生

座長 岩手郡医師会 上原充郎先生

(3) 研究協議

研究発表主題 「児童生徒自ら健康に関心をもち主体的に健康診断を受ける

郡医師会理事 上原充郎

ための指導はどうあればよいかー
児童生徒の意識調査を通して事前
指導のあり方を探るー」

助言者 盛岡教育事務所指導主事兼保健体
育主事 千葉和寿先生

前盛岡市立城南小学校 養護教諭
浅田和子先生

発表者 岩手県学校保健会

岩手町立南山形小学校 養護教諭
長澤 綾

岩手町立久保小学校 養護教諭
酒井厚子

座長 岩手郡歯科医師会 南部淑文先生

参加対象

- ・岩手地区各町村学校保健会会員
- ・岩手地区医師会会員
- ・岩手地区歯科医師会会員
- ・岩手地区学校薬剤師会会員
- ・岩手地区町村教育委員会連絡協議会会員
- ・学校保健・安全・給食の分野に関心のあ
る方

講演会

日時：平成11年11月20日(土) PM 3:30～

場所：盛岡市ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING

◇学術講演◇

「院外で急死する例への対策」

岩手県高次救急センター

助教授 鈴木智之先生



鈴木智之助教授

本日の講師の鈴木先生は、岩手大学附属病院に高次救急センターが昭和55年に併設されて以来、循環器内科にかかわってきた。1990年(平成2年)高次救急センターに運ばれてくる急性心臓疾患の73例のうち12例の死亡(死亡率16.4%)があったが1995年(平成7年)には120例中、10例(死亡率8.3%)程度の死亡に減少した。また急性心筋梗塞症は致死率が30～50%といわれて久しい。(早期発症、院外で急死、院内死亡は低下した。)心肺停止は最近80例前後で、心臓性疾患のうち、心筋梗塞症は約54%を占める。また心臓性心肺停止例355例中259例は外来死であり、一週間生存は10.7%にすぎず、社会復帰する例は6例、わずか1.8%程度である。

救急隊の活動状況をもても、通報から現場到着までは、全国平均5.8分なのに対して、岩手県では道路網や冬期間の道路凍結、難所などのため7.1分となっている。また通報から医療施設への到着には、全国平均22.3分に対して、岩手県では28分を要しているという。この数値は数年来変化がない。

心肺停止についてみると、 $\frac{3}{4}$ は自宅、収容施設で発生し、90%は救急隊到着前である。

これらの課題として

- 1) 発症率の把握
- 2) 救急サービスの地域較差の是正
- 3) 地域住民医療知識技術の向上

4) 専門病院の医療水準の向上

などが考えられる。

平成4年には救急救命士制度が始まっているが、1997年の例をみても救急隊が搬送した270例中、生存例は6例で、98%が死亡している。

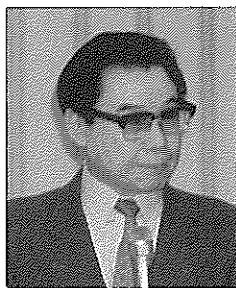
岩手県の住民(172人)を対象として虚血性心疾患について調べてみると、高脂血症が10人(5.9%)、左室肥大10人がみられた。

これからの問題点として、集中治療をするために救急救命士のモービルCCU、在宅医療、医療情報ネット、かかりつけ医機能などを含めた医学医療を院外にも啓蒙する必要があると結ばれた。

◇文化講演◇

「言葉の使い方で人生、輝きを増す」

落語家 柳家金三師匠



柳家金三師匠

本日の演者柳家金三師匠は故柳家金語楼氏(故人)の一番弟子として昭和42年に真打ちとなつて

いる。元首相佐藤栄作氏(故人)には特に好んで声がかかり、一席を務めたこともしばしばであった。高座、席亭は無論のこと全国各地の講演会が多いという。また司会にも(結婚式とかの)時に声がかかるという。

「人間関係はおしゃべりに始まって、おしゃべりに終る。」というように人それぞれの態度と言葉は大事である。「今日はきれいですね」と「今日もきれいですね」という場合、「は」と「も」を置きかえただけで言葉のもつニュアンスが違ってくる。このように話すときの言葉づかいには一言一言注意しながら話さな

ければならない。

死刑因嶋秋人（本名柴田悟）という人がいた。この人は死刑の執行を前に毎日独房で監視員の足音を気にしながら過ごしていたが、あるとき「思い残すことはないか、何か記憶にとどめておくことはないか」と尋ねられ、今まで何一つとしてほめられたことはないが、中学校時代美術の先生に自分の絵を評価され、「構図がいいね」と一言いわれたことを思い出し、その担当の先生に、現在の自分の立場、心境を手紙に書いて差し上げたところ、先生と奥様から丁寧な返信が届いた。奥様か

らのお便りに感銘を受け、その後刑が執行（昭和42年11月2日）されるまで詩とか短歌を作り、歌集も出しているという。

その中の一つに「ほめられし、一つのことのうれしかり、いのち愛しむ、夜のおもひに」というのがある。

その他、八代目桂文楽師匠、古今亭志ん生師匠の思い出話などを話してくれ、今日の講座を聞かなかった人は後から悔やんでもしょうがないが、聞いた人だけが得する教養講座という感じであった。

（終了後、懇親忘年会）

懇親会・忘年会

お二人の講演会終了後、同ホテル内において懇親会・忘年会が行われた。

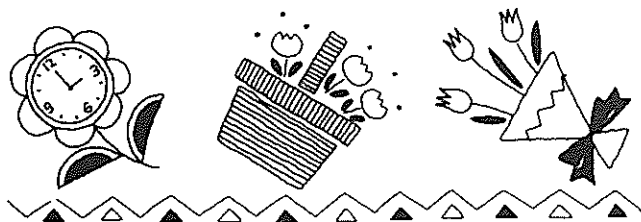
これには二人の講師も参加され、雫石町上原充郎先生のなつメロのトランペット演奏あり、会員有志のカラオケありとゆっくりとくつろぎのときを過ごすことになった。



懇親会・忘年会



上原充郎先生の
トランペット演奏



●●●●●●● 岩手郡医師会理事会 ●●●●●●●

日 時：平成11年11月4日(木) PM 6:00～

場 所：盛岡市大通り 梓

出席者：高橋牧、西島、八角、岡本、篠村、
及川、佐々木、嶋、栃内、上原の各
理事

議 題

1) 連絡事項

1. 思春期談話会

(11月17日(水)午後6時30分～午後8時)

2. HTL-I抗体検査陽性献血者への通知に 伴う研修会(11年11月14日県医師会4階 ホール PM 1:00～3:00)

3. 「じん肺診断技術等研修」の受講者募集

4. 岩手医学会秋季総会(11月28日)出席
について

5. 平成12年度健康診断実施について

2) 「診療情報の提供」に関する指針

平成12年1月1日より開示

① 事実をかきとめておく

② カルテの判読できること

3) 岩手郡医師会選挙施行細則の検討

4) 講演会開催について(11月20日)

学術：「心筋梗塞について」(仮題)岩手医大
高次救急センター 鈴木智之先生

文化：落語家 柳家金三師匠

5) その他

●●●●●●● 岩手郡医師会役員会 ●●●●●●●

日 時：平成11年12月17日(金) 午前6時より

場 所：盛岡市 ホテルロイヤル盛岡

出席者：高橋牧、高橋孝、西島、坂井、
八角、根本、嶋、篠村、及川、
佐々木、栃内の各理事及び
細井、久保谷の各監事

○岩手郡医師会通常総会(平成12年2月12
日)におけるプログラム及び任期満了によ
る役員改選の方法

役員選出管理委員会(委員として地域
性、年齢を考慮して及川忠人、高橋孝、西
島康之、栃内秀彦、坂井博毅の各先生が選
出された。)が設置され、細部を検討する
こととなった。

○診療情報の提供について

平成12年1月より

○薬価・診療報酬・改定について

平成12年4月より

●●●●●●● 岩手郡医師会役員会 ●●●●●●●

日 時：平成12年1月29日(土) PM 3:30～

場 所：ホテル東日本

出席者：会長、副会長(高橋孝、西島)、
根本、栃内、岡本、嶋、八角、
及川、篠村、佐々木、坂井の各理事

平成12年2月12日(土)に行われる郡医師会
通常総会に提出する議題、講演会について

○「心疾患診療マネジメントシステム」に ついての協力要請

岩手医大循環器医療センター

鎌田 弘之 先生

○「岩手山噴火における災害医療体制」

岩手医大高次救急センター教授

谷口 繁 先生

○総会次第について

開会の辞

議長選出

出席者確認

会長挨拶

議事録署名人選出

会務報告

議 事

事業計画

一般会計予算書

休祭日当番医予算書

○県医師会提出役員の承認

県医師会理事 西島康之先生

県医師会代議員

及川忠人先生、根本忠夫先生

県医師会予備代議員

谷藤一生先生、土井尻健一先生

県医師会裁定委員 佐藤郁郎先生

● 介護保険認定業務にあたっての感想 ●

雫石町 高橋 孝

一件当たりの認定時間が話題となっているが、日医総研発行の冊子「認定審査にあたっての事前審査、検討」の通り、これはなかなか至難な事だが各委員が行って認定審査会に参加すると、要介護2以上であれば1分位で認定出来るように思う。しかし要介護1、要支援、非該当に至ってはこの様にはいかない。私共の審査会では、久保谷康夫先生のご提案で、はじめ重い方、即ち要介護5から2迄を審査し、要介護1、要支援、非該当は後で審査をすることにしている。このことによって、それぞれについて比較（このことがお上の意にかなうか不明だが）することも可能で、しかも時間が節約出来て、正確、公平な審査が出来ると信じている。日本医師会発行の審査の手引きによく書いてあるが、審査の順を追って公平を期する為には、一次判定、調査員の特記事項、主治医の意見書の事前審査が最も大切である。私は少なくとも、調査員の調査表、特記事項と主治医の意見書とを比較して、1群から7群までの評価、特記事項、医師の意見書の1から5まで、記載事項との不一致点について検索する。次いで寝たきり度、痴呆度の日常生活自立度より、介護度の範囲の大凡を知ることになっているが、医師と調査員の自立度に大きな違いのあることもあり、85項目から大凡正しいものを選び、範囲として考えることとしている。次に中間評価項目別に図表化した所謂（レーダーチャート）を参考にして、近い状態像を探し比較して、介護度認定へと進む。謎の得点、在宅での介護老人には行わないで（50名は行ったと過日の講習会では話していたが）施設のみでのタイムスタディーによる基準値で在宅介護には即応しない等など色々の問題はあっても、現行の方法にて介護度を決める以外に手立てはない。要介護1、要支援、非該当に至っては、日医総研でも指摘しているが、なかなか認定は至難である。中間評価項目等により、状態像よりの認定が早く公平に認定出来ると思っている。特に調査項目中介護を要する項目が内容に関係なく3項目以下だと自動的に非該当になる仕組みについては、医師、調査員の特記事項を目を凝らして見て要支援に上

げようと思う心が働く。これも調査員が如何に正確に公平に調査しているか、主治医の意見書で医学的に見た介護の手間の程度が如何に書かれているかが大切になってきます。介護度が決まると家族が中心となり、医療、保険、福祉のサービス担当者によってケアカンファレンス、ケアプラン、サービス、モニタリング、再アセスメント等といやな横文字の道程で進むわけだが、何れもケアマネジャーが中心となってとある。申請者が病氣、痛み、苦しみ等に妨げられず、限りある人生を楽しく、美しく生きる所謂QOLの維持、向上が介護保険の最大の目的と謳い上げている。介護サービスはニーズ優先のアプローチと言われ、当然それには申請者の予後を知ること大切と考える。どこの過程でも医師が大きく関わっている。前の岩手郡医報にも書いたが、ケアマネジャーの制度を続けるなら医師の全てにその職を与えるべきと考えるが、しかし現行では医師が関わっているのは、認定審査と主治医の意見書のみだが、前述したが介護の手間について、字数は少なくとも正確にしかも適切に書きたいものと思っている。これは私のみだろうと思うが、主治医と言う患者よりありがたい称号を戴いても意見書に正確に書く位患者について理解してなかったことに気が付くことが多い。往診している患者でも麻痺は知っていても拘縮、問題行動等はすらすら書けなかった。更に自立度についてはマニュアルを見ながらだが、自立度より介護度の範囲をみると、医師の自立度より調査員の自立度より算出された数値が何故か近い。特記事項欄にも書き忘れて無いことを告げるためにも、空白に止めず、「特になし」とか「特記事項なし」とかで締めくくるようにしたいものと努力している。最後に駄弁を一つ委員報酬は(1)実際に審査会に参加している出務部分、(2)認定審査にあたっての事前審査、検討部分、(3)各委員の本来業務に係わる費用弁償部分の要素を勘案してと医師会誌にあるが(3)はどうだろう。又多くの会合、特に公的会合は日、曜日、時間について医師の本来の業務についての配慮が足りないように思うが小生のみだろうか。

介護保険

要支援（社会的支援）

- 居室の清掃などの身の回りの世話の一部に何らかの介助（見守りや手助け）を必要とする。
- 立ち上がりや片足での立位保持などの複雑な動作に何らかの支えを必要とすることがある。
- 排せつや食事はほとんど自分ひとりでできる。

などの方が含まれる状態です。

要介護1（部分的な介護）

- みだしなみや居室の清掃などの身の回りの世話に何らかの介助（見守りや手助け）を必要とする。
- 立ち上がりや片足での立位保持などの複雑な動作に何らかの支えを必要とする。
- 歩行や両足での立位保持などの移動の動作に何らかの支えを必要とすることがある。
- 排せつや食事はほとんど自分ひとりでできる。
- 問題行動や理解の低下がみられることがある。

などの方が含まれる状態です。

要介護2（軽度の介護）

- みだしなみや居室の清掃などの身の回りの世話の全般に何らかの介助（見守りや手助け）を必要とする。
- 立ち上がりや片足での立位保持などの複雑な動作に何らかの支えを必要とする。
- 歩行や両足での立位保持などの移動の動作に何らかの支えを必要とする。
- 排せつや食事に何らかの介助（見守りや手助け）を必要とすることがある。
- 問題行動や理解の低下がみられることがある。

などの方が含まれる状態です。

要介護3（中等度の介護）

- みだしなみや居室の掃除などの身の回りの世話が自分ひとりでできない。
- 立ち上がりや片足での立位保持などの複雑な動作が自分ひとりでできない。
- 歩行や両足での立位保持などの移動の動作が自分ではできないことがある。
- 排せつが自分ひとりでできない。
- いくつかの問題行動や理解の低下がみられることがある。

などの方が含まれる状態です。

要介護4（重度の介護）

- みだしなみや居室の掃除などの身の回りの世話がほとんどできない。
- 立ち上がりや片足での立位保持などの複雑な動作がほとんどできない。
- 歩行や両足での立位保持などの移動の動作が自分ひとりでできない。
- 排せつがほとんどできない。
- 多くの問題行動や全般的な理解の低下がみられることがある。

などの方が含まれる状態です。

要介護5（最重度の介護）

- みだしなみや居室の掃除などの身の回りの世話がほとんどできない。
- 立ち上がりや片足での立位保持などの複雑な動作がほとんどできない。
- 歩行や両足での立位保持などの移動の動作がほとんどできない。
- 排せつや食事がほとんどできない。
- 多くも問題行動や全般的な理解の低下がみられることがある。

などの方が含まれる状態です。

＜会員入会＞

①氏名：高 橋 邦 尚
(ゆとりが丘クリニック)

②年齢：46歳

③出身地：岩手県湯田町

④出身校：岩手医大医学部（昭和55年卒）

⑤診療科目：内科、胃腸科、呼吸器科、放射線科

⑥開業の時期：平成11年12月3日

⑦趣味：魚釣り

⑧ひとこと：患者さんが少なく困っています。

ゆとりが丘クリニック

〒020-0172

岩手郡滝沢村滝沢字土沢541

TEL 019-699-1122

◆◆◆◆◆ 編 集 後 記 ◆◆◆◆◆

○毎回表紙写真について頭を痛めていましたが、今回雫石町高橋孝先生の詩も好き、歌うのも好きだという「城が島の雨」のかな書を送っていただきました。貴重な書でもあり、どうもありがとうございます。小生も学生時代、歌碑のある現地を訪れたことがあり、百科事典を検べてみる気になりました。この歌は、年代によって差があるかもしれませんが、ひとりでの口ずさみたくなるような、何年経っても人々に愛唱される歌なのだろうと思います。

○去る2月12日には郡医師会通常総会が行われ、次年度の事業計画及び予算書が承認されました。また任期満了による役員の改選については、過日の役員会において役員選出管理委員会（5名の委員、代表坂井博毅先生）が設置され、1月20日／＼切にて立候補の届出を募り、それに応募された理事、監事が定員通りとなり、総会にて発表された。よって理事の中から互選により、会長に再び高橋牧之介先生、副会長に高橋孝先生、西島康之先生が再任され、前回同様かわりばえのない顔ぶれとなった。

○地域医療講演会における岩手県高次救急センター谷口繁先生のお話しは、1月20日県議会の特別委員会に宿泊施設の方々と共に招かれて解説したという「岩手山噴火防災への取組状況」の医療部門についてわかり

易く現状を話してくれた。また本年度は西根町（平成11年10月24日）、雫石町（平成12年2月20日）がこの訓練を行った。

○雫石町での救急医療研修会での心肺蘇生法や西根町での岩手山噴火対策防災訓練での被災者のトリアージによる医療救護など災害に備えての訓練ではあるが、いざ事故発生となった場合、同様の処置が出来るものだろうかと不安な部分もある。

○11月20日に行われた講演会では、救急医療の実際を取り扱う高次救急センター鈴木智之先生等の努力により急性心臓疾患での死亡率も1ケタ代に減少した現代医療の数々を披露していただいた。

また同日行われた柳家金三師匠は、各地でひっぱりダコという話し家独特の話法で、聴衆の中に入っていくという感じの解り易いお話であった。

○随想では平成12年4月から始まる介護保険における認定作業が各地域で行われているが、岩手郡の場合葛巻町、岩手町、西根町、安代町、玉山村、松尾村の6ヶ町村が盛岡北部行政事務組合（事務所西根町平館）を結成し、滝沢村と雫石町が連合体となって認定審査会を行っている。そこでの諸問題について解説していただいた。

(M・S記)